

世界を、未来を、動かせ。—新時代への挑戦

今回紹介したつばき商品

ラボストック®

DNAや創薬研究に貢献 新型コロナのPCR検査にも

生体試料を外気にさらすことなく保管するための冷凍保管庫。庫内温度を細胞等の長期保管に適しているとされるマイナス150度にまで下げたのは世界初で、東京大学や大手製薬企業をはじめとした研究機関でのがん治療、創薬の取り組みに大きく貢献している。検体は、底面に2次元コードを印字できる独自



開発のチューブに入れて庫内のラックに収納。タッチパネルを操作することで、ロボットアームが正確かつ高速に、大量のチューブの中から1本単位に必要なチューブをピックアップする。1号機開発からおよそ20年、安全と使いやすさを追求して磨きあげたノウハウは、感染症対策分野でも生かされると期待が高まっている。

椿本チエインは、「フロンティア・スピリット」にあふれる仲間を求めています。

社員の奮闘を描いた「新時代への挑戦」(vol.1~9)をWEBで公開中。



治療や新薬の研究に欠かせない生体試料や化合物を、マイナス150度という超低温下で長期保管する全自動保管庫「ラボストック150」。検体を劣化から守るだけでなく、検体チューブを格納した内部ではロボットアームが正確かつ高速で動き、数万本の中から必要なチューブ1本をピックアップする。高度医療研究に貢献できる機能を設計し、実装するのが相田の率いるチームだ。

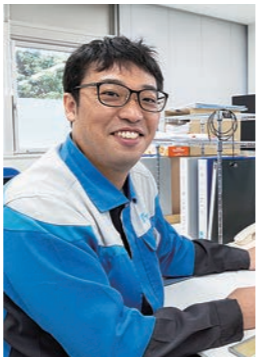
電子工学科の同級生の多くが電機メーカーなどに就職する中、相田は機械メーカーの椿本チエインを選んだ。「優れた機械や装置も、それだけでは動かない。制御設計で機器に命を吹き込まない」

デジタル化が進む今、機器の動きをコントロールする制御設計の重要性は高まる一方だ。相田の業

機器に命を吹き込み ライフサイエンスを支える

マテハン事業部
制御技術部
相田 兼都

vol.10



も若い頃、仲間と考えた業務改善のアイデアが採用され、自信につながった。だから自分も、若手の新たな視点、意見を尊重する。この社風こそが、TSUBAKIの進化の原動力だと確信している。

ラボストックのシリーズ拡大とあわせ、相田のチームは今、そのノウハウを新型コロナウイルス対策にも生かそうとしている。PCR検査工程を自動化する挑戦だ。ラボストックで磨いた技術で、検査に従事する人の安全も守りたい。今よりも安心して暮らせる未来へ、TSUBAKIの技術が、社会を動かす。



務も、システムの検討、プログラム設計、試運転調整と多岐にわたる。納品先ごとに仕様も異なる。設計段階で予想できなかったプログラムの不具合が試運転で見つかり、修正に追われたこともある。大変な仕事だからこそ、機器が正常に動いた時の達成感は格別だ。

リーダーとして全体を見るようになって、「オーラルTSUBAKI」の強固な一体感を実感している。他部署との連携の取りやすさ、若手が臆さず意見やアイデアを出せる風通しの良さ。自ら